

終業式（2年生） 「デキる人」

梅雨も明けて、暑い夏がきた。新しい生活様式の中、マスクを付けて過ごす夏は初めてだけど、熱中症にも十分気をつけて。



## 1 夏の匂い

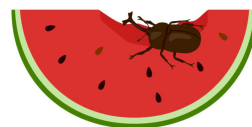
みなさんにとって「夏の匂い」とは？

民間の調査では1位は蚊取り線香の匂い。他にも汗の匂いとか。

こんな曲が流れてた・・・「香水」。香水名は、「ドルチェ・アンド・ガッバーナ」。

匂いを嗅ぐ嗅覚と記憶を司るところは脳の中でつながっているらしい。スイカの匂いで、カブトムシを飼っていた頃を思い出す人もいるのでは？

匂い付きの教科書があれば、三角関数も苦にならない！



今朝は、「デキる人」についての話。

職場とかでよく「あの人はデキる！」とかいうけれど、

「デキる人」とは？



## 2 「できる人」とは？

(1) 水泳部マネージャーの話

メモリアル大会中、選手のコメントを取り上げた「虹空がんばれ高校3年生」。ある高校の水泳部のマネージャーの話。

「大会出場 一生の思い出」

ずっとマネージャーだったけど、最後の大会でみんなに説得されて、初めて選手としてリレーに出た。

大会1週間前からみんなからアドバイスをもらい練習した。今まで以上に選手のすごさが分かった。自分にとって一生の思い出になった。

自分がマネージャーになったのは、頑張る選手を後ろから支えたかったから。相手が何を求めているかを察し、先回りして行動するよう心がけた。

やりがいのある仕事で、楽しく充実した部活を送れた。



## (2) 三献茶 (さんけんちゃ)

豊臣秀吉が鷹狩りの途中、大変喉が渴いたので、寺に立ち寄った。そこで、寺の小僧にお茶を持って来るよう伝えた。するとその小僧は

①大きなお椀にぬるいお茶をたくさん入れて持ってきた。

秀吉は喉が渴いていたのですぐに飲み、おかわりした。

②小僧は、今度は、少し小さめのお椀にやや熱めのお茶を入れてきた。秀吉はそれも飲み、さらにおかわりした。

③すると今度は小さなお茶碗に熱々のお茶を少しだけ持ってきた

秀吉は小僧の気配りに気づき自分の家来にした。この男こそ、後の石田三成。



最初は、秀吉がとても喉が渴いていると考え、飲みやすいようにぬるめのお茶をたくさん持ってきた。そして喉の渴きがとれると、お茶の量を減らし、お茶を熱くして味わえるようにした。

### 3 できる人とは？

この2つの話に共通することは？水泳部のマネージャーの言葉。

「相手が何を求めているかを察し、先回りして行動する」。

これを「気が利く」という。「デキる人」というのは、「気が利く人」のこと。

では、「デキる人」になるためにはどうすればいい？そのための3ステップ。

#### 【ステップ1】

相手の動きをよく見る。  
それを「観察」という。  
「目に見える部分」を細かく見る。



#### 【ステップ2】

その人が何をしたいのかを考える。  
それを「洞察」という。「目に見えない部分」を見抜く。

#### 【ステップ3】

相手がやろうとすることに気付いて、  
先回りして動く。



①観察→②洞察→③とっさの判断

この中でも、もっとも大事なのが、「洞察力」。  
相手の立場で想像できるか？

たとえば、バレーのブロック。

- ①相手の動きを観察して
- ②相手が何を考えどこに打ってくるかを予想して
- ③とっさに先回りして動く



この夏は、ぜひ、洞察力を鍛えて、「デキる人」を目指してほしい。